

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2013 - 1 - 4
研究課題名	高血圧治療における費用対効果分析
研究期間	西暦 2013 年 3 月（倫理委員会承認後）～2015 年 3 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（医用画像レポート、診療支援システムにおける診療データ、医事データ（特に医療費と処方））
上記材料の採取期間	西暦 2012 年 3 月～ 2013 年 3 月
意義、目的	<p>高血圧やその合併症の診断・治療に関わる医療費は、厚生労働省の発表する国民医療費の内訳でも大きな割合を占めている。しかし、高血圧症の中でも合併症発生リスクが高いが、適切な治療を行えば、寛解も期待できる原発性アルドステロン症が約 10%潜在し、それらを適切に診断・治療していくことは、国民医療費の高騰を抑える一助になりうると考える。</p> <p>臨床における経済学の評価方法の一つとして、費用対効果分析が挙げられ、その医療を受けることによって得られる効果と同時に費用も含めた長期的なアウトカムを評価することが可能である。</p> <p>本研究は、高血圧の長期的な費用対効果分析を行うために必要な費用（特に脳卒中症例）を、過去の臨床データを用い、分析の対象に相当する症例リストを作成し、医事データを用いて、医療費と調剤薬剤費の調査を行う事を目的とする。</p>
方法	<p>対象：東北大学病院で、CT または MRI の検査を受け 2012 年 3 月から 2013 年 3 月の間に、脳卒中<sup>※</sup>と診断されたもの（手術例 約 50 例、非手術例 約 50 例） 2012 年 3 月以前に脳卒中の診断がつき、2012 年 3 月～2013 年 3 月の間に脳卒中のフォローアップとして来院・検査しているもの 約 50 例</p> <p>※国際傷病分類（international classification of disease: ICD）：ICD 9 の 430-438、または ICD10 の I60-69 に含まれるもの</p> <p>方法：</p> <p>①脳卒中症例リストの作成</p> <p>a. 読影レポートの検索機能を用い、過去の脳卒中の MRI または CT 画像を検索する。さらに、医事データの閲覧期間の制限を考慮して、目的別に以下 3 つの症例リスト</p>

(各 50 例を目標とする) を作成する。

リスト 1. 発症 1 年以内の脳卒中→脳卒中の初期治療に関わる医療費 (手術有り)

リスト 2. 発症 1 年以内の脳卒中→脳卒中の初期治療に関わる医療費 (手術なし)

リスト 3. 発症 3 年以内の脳卒中→脳卒中のフォローアップに係る医療費

b. 次に診療支援システムから、1 例ずつ手術の有無、発症、および発症後の入院・通院状況の確認を行う。

②医事データの検索

医事データから、脳卒中に関係する医療費と処方を入力

③費用の算出

調剤薬剤費については処方の薬剤名、容量から薬価を求め、調剤技術料は薬価の 35%とし、当院医科診療費と足しあわせ医療費として取り扱う。

なおこれらのデータは連結可能匿名化を行い、データベース上では管理番号で保管される。これら全てのデータは研究実施者の管理下のもと、厳重に管理を行う。

問い合わせ・苦情等の窓口

東北大学大学院医学系研究科

画像診断学分野

佐藤美帆

〒980-8575

宮城県仙台市青葉区星陵町 2 - 1

022-717-8683

meifan58@med.tohoku.ac.jp